

『患者さんと家族のための乳房再建ガイドブック』

日本形成外科学会 編

●定価 3,080 円(税込み) ●B5 判 156 頁 ●医歯薬出版刊

●発行年月：2024 年 7 月 ●ISBN978-4-263-73223-6



乳癌診療では、手術療法、放射線療法、薬物療法と、まずは命を救う・生存率を上げることが最重要視されるが、同時に、クオリティオブライフ(QOL)を下げない、治療による身体的・精神的なダメージを最小化し、整容性やアピランスケアも十二分に考慮することが大切である。しかしながら、病気の進展により、あるいはリスク低減の観点から、乳房をすべて切除する術式を選択せざるをえないこともある。乳房全切除を行う際には、同時に乳房再建術について説明を行うことや、さまざまな再建の方策について紹介することを世界的な診療ガイドラインの多くが求めている。

わが国では、乳房再建まで辿り着く患者さんの割合はまだまだ低いという現状がある。患者さんやその家族、そして乳房再建の前段階での診療にあたっておられる医療従事者に対し、もっともっと乳房再建まで辿り着けるよう啓発していきたい、という強い願いを日本形成外科学会の乳房再建ガイドブック作成委員の方々はお持ちである。そのことが今回、ガイドブックを作ろうと思いついた動機であり目的であるということが本書を読んでもらうことで感じられる。

まず、各章の冒頭に基礎事項としてアウトラインがわかりやすくまとめられていて、各章の全体像の把握に役立つ(「1章 乳房再建とは」, 「2章 乳がん治療と乳房再建」, 「3章 インプラント再建」, 「4章 自家組織再建」, 「5章 脂肪注入」, 「6章 乳頭乳輪再建」)。そして、患者さんからアンケートを集計して特に知りたいと思われる質問(ペイシェントクエスション PQ)50項目を厳選し、乳房再建の専門医等が答えるという構成が中心となっている。また、関連する CQ(クリニカルクエスション, 『乳房再建診療ガイドライン 2021』 web 版 <https://jsprs.or.jp/general/breastrecon/guidelines.html>)へのリンク用 QR コードが PQ 横に提示されていて、スマートフォン等での閲覧も可能で、関連項目をより深く学ぶことができるような工夫もみられる。

本ガイドブックは乳房再建をお考えの患者さんはもとより、医療従事者にも役立つ内容となっており、実地臨床にもただちに役立つ書籍である。是非ともご一読をお勧めしたい。

(戸井雅和／日本乳癌学会理事長, がん・感染症センター都立駒込病院院長, 京都大学名誉教授)